

# 平成30年7月豪雨災害と居住誘導区域について

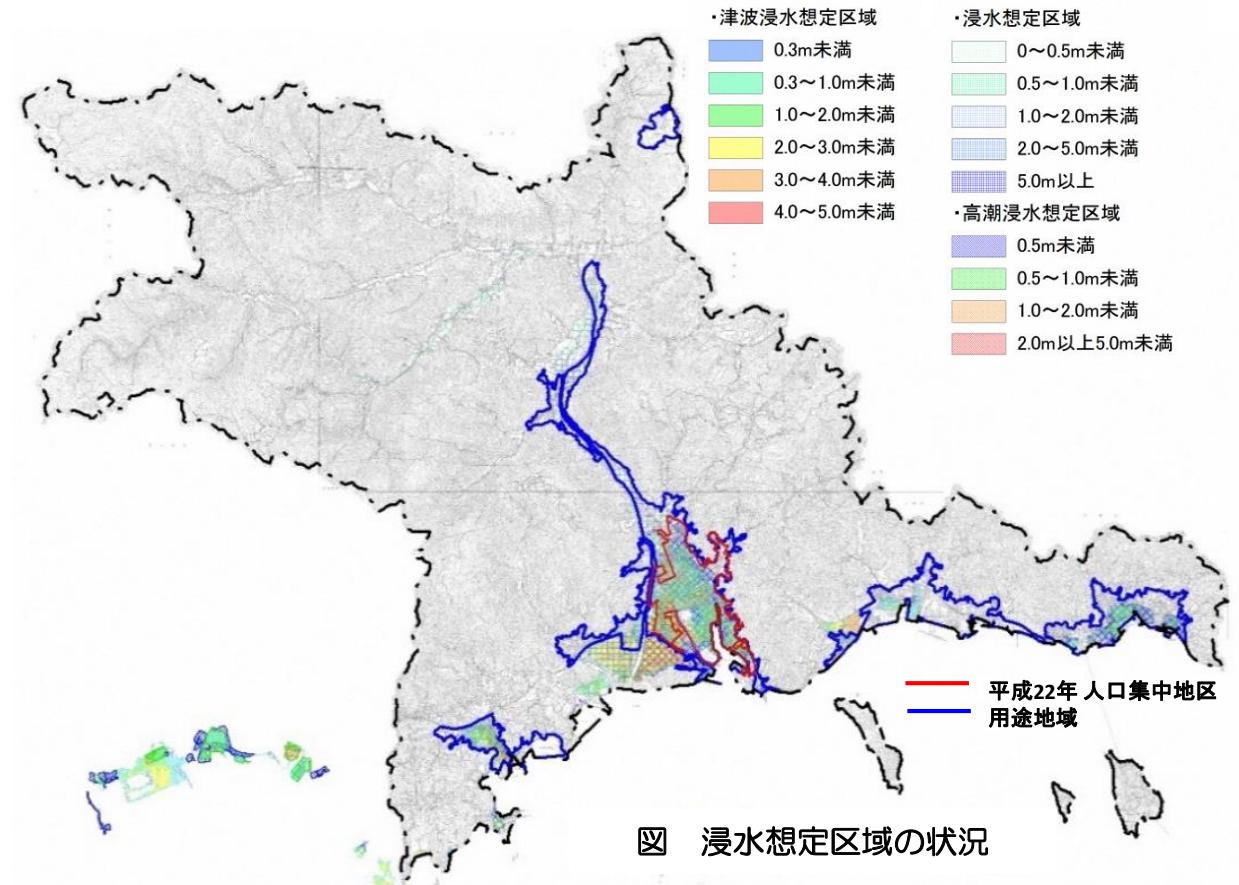
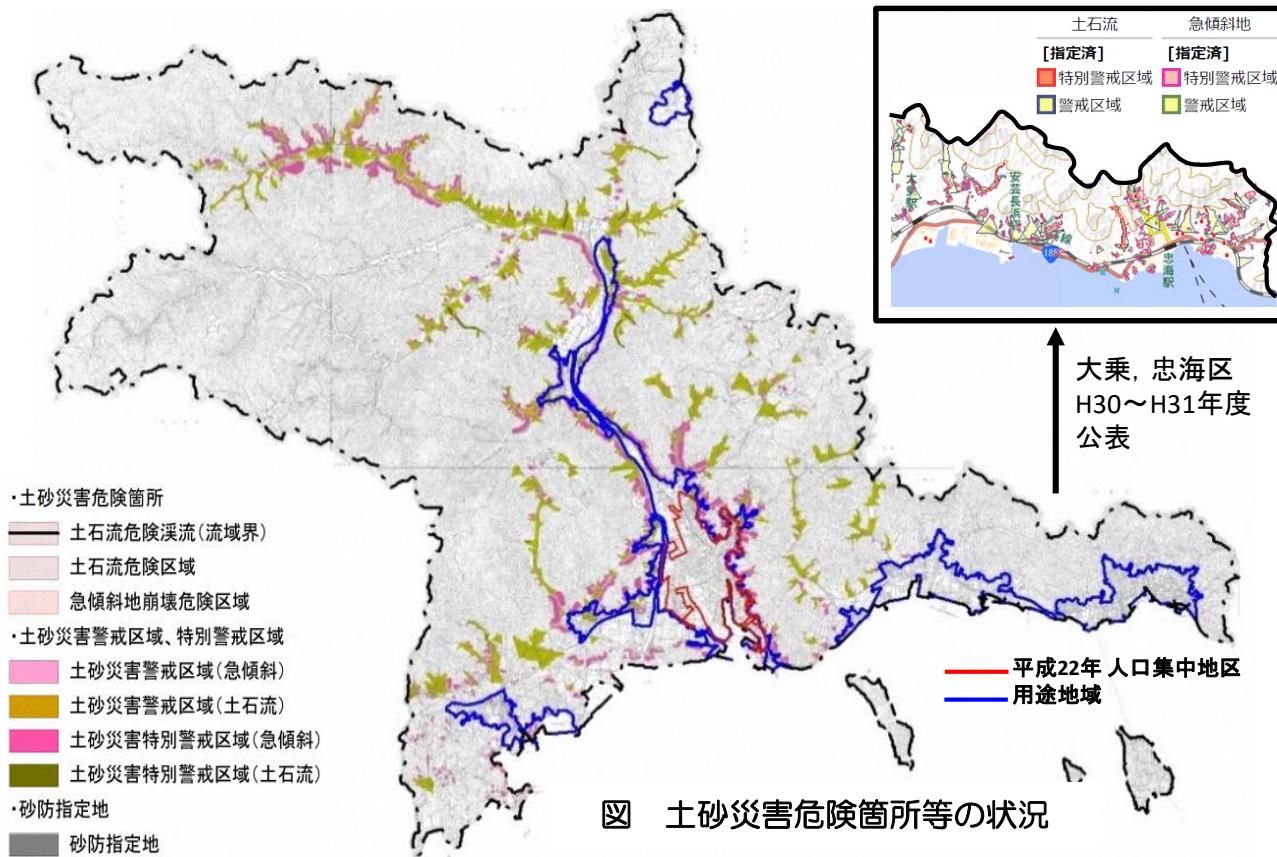
## ◆災害リスクの現状と居住誘導区域設定

### 《現状》

山間部、主に山裾部は、そのほとんどが土砂災害等の危険区域に指定されています。また、沿岸部の平野部は、河川、高潮及び津波の浸水想定区域となっており、人口集中地区は1～2m程度の浸水が発生すると想定されています。

### 《居住誘導区域の設定（災害リスクの視点）》

災害リスクの高い区域（災害危険区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域等）は除きます。  
本市の中心市街地は、その成り立ち上、浸水想定区域が多く、これらを居住誘導区域から除外すれば、市街地として機能を形成することができません。津波や洪水等による浸水想定は1～2mとされており、一定には避難時間を確保できることから、堤防などによる浸水対策や防災無線やハザードマップなどによる避難対策を充実させることにより、居住誘導区域として設定します。

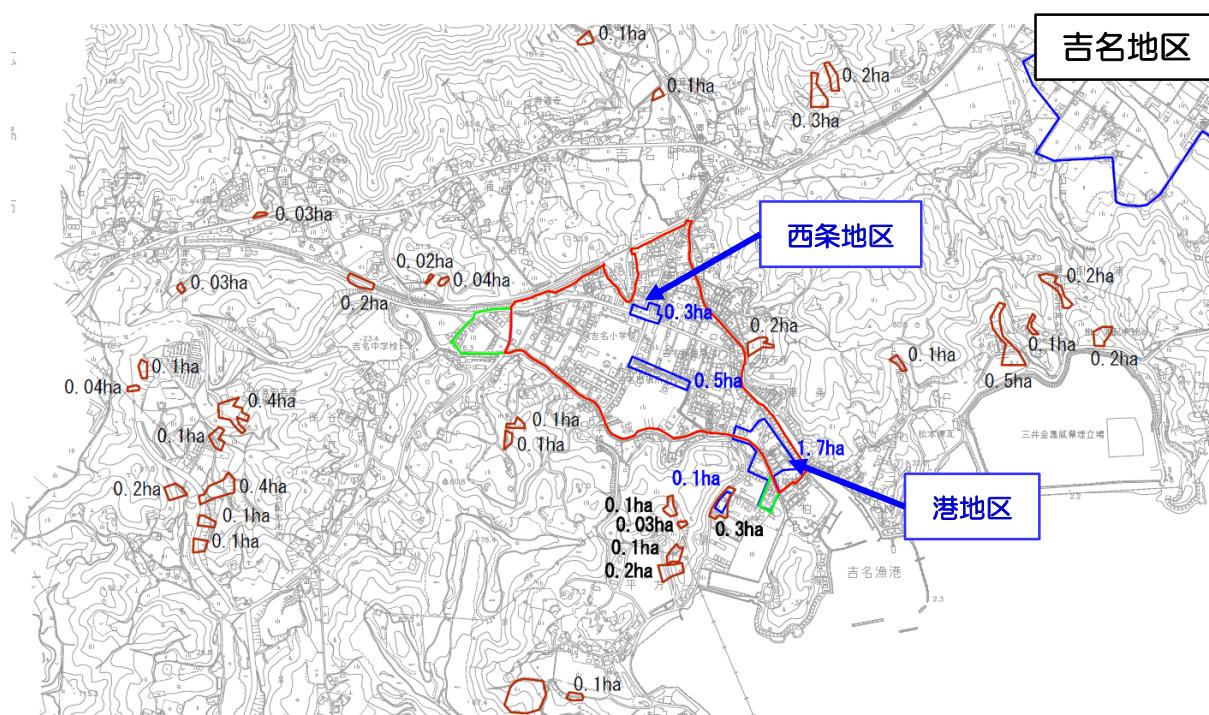
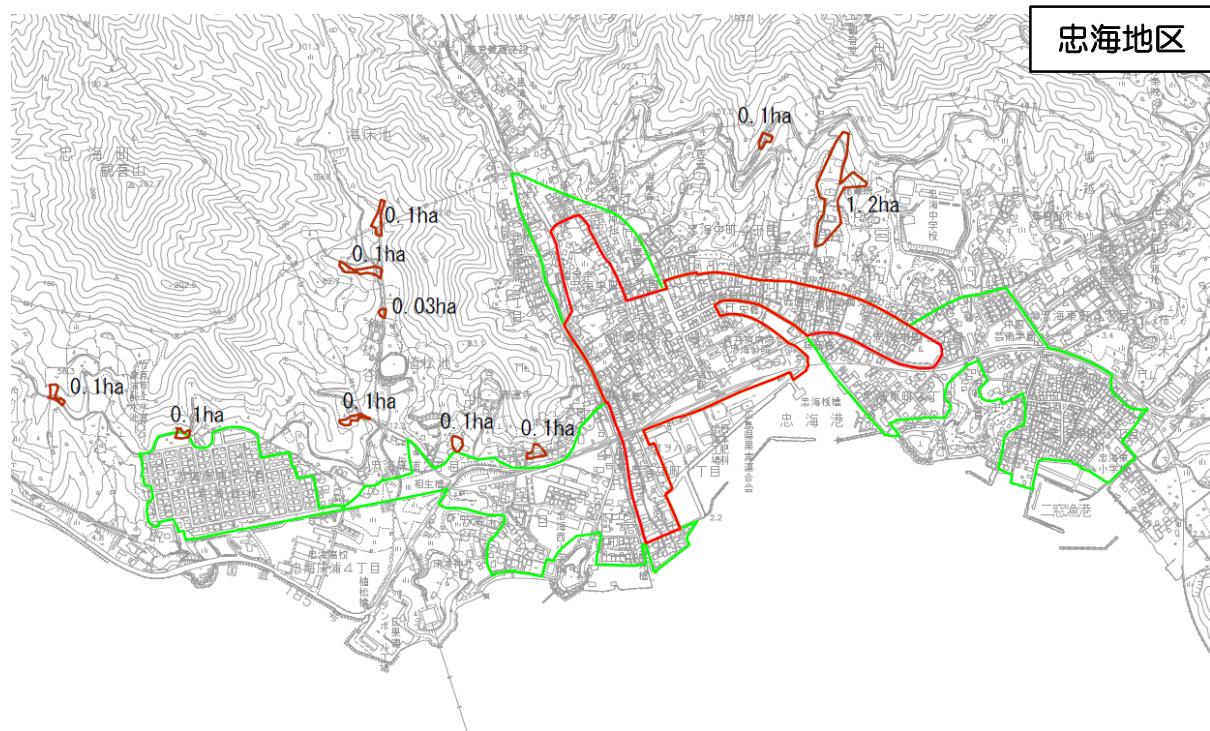
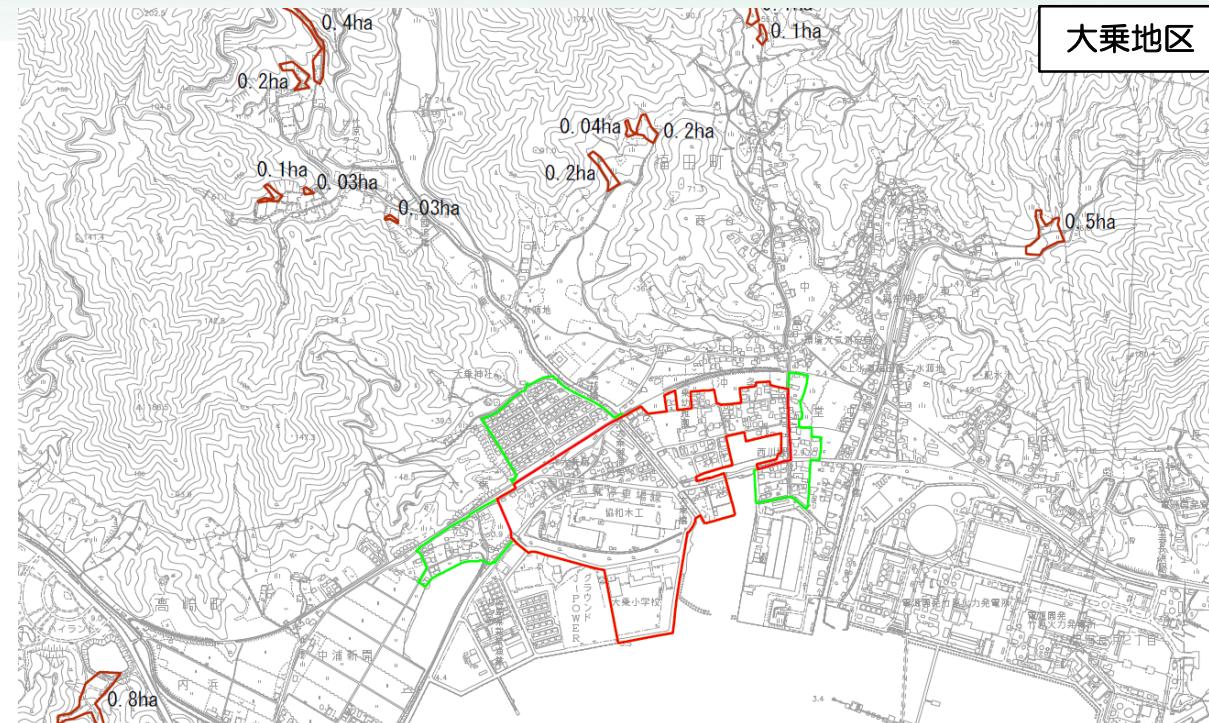
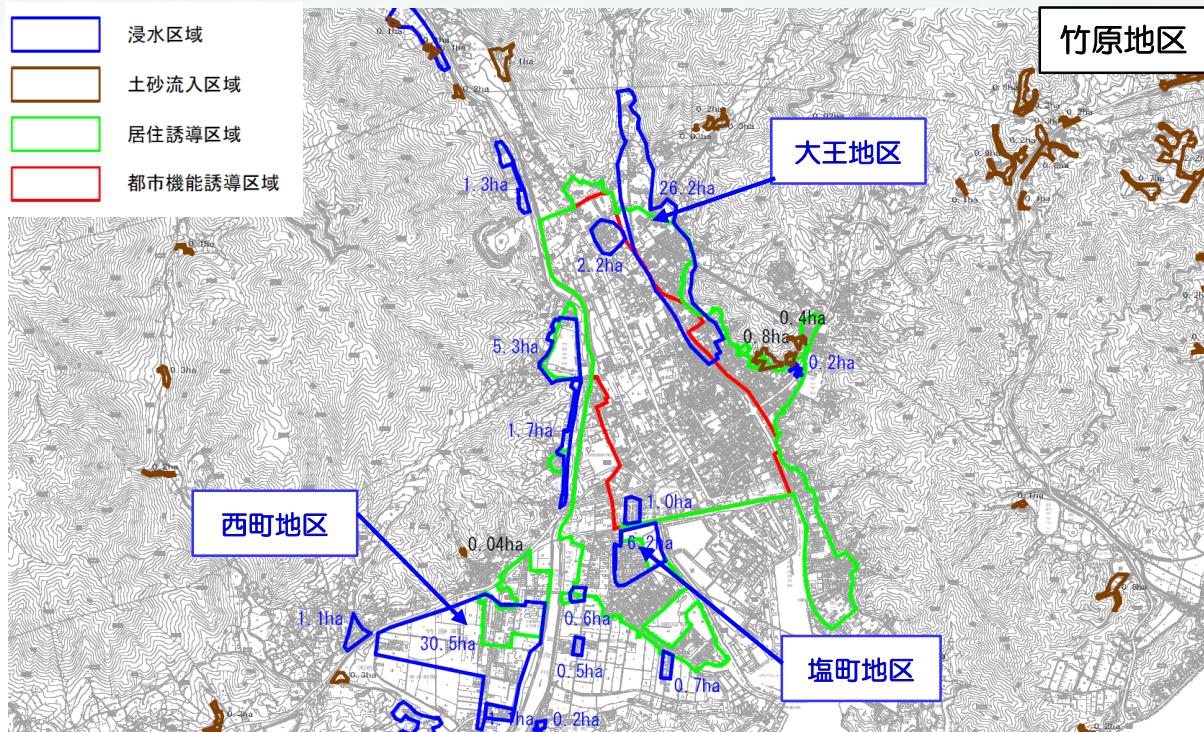


### 《被災概要》

平成30年7月5日から8日にかけて発生した豪雨により、市全域に大雨特別警報及び避難指示が発令され、最大794人が避難した大規模災害となった。  
長期間かつ大規模な豪雨により、市全域において同時多発的に斜面崩壊や土石流、河川氾濫が発生し、道路、河川、田畑、市街地内に大きな被害をもたらした。  
また、国道2号、国道432号、三原竹原線などの主要幹線道路が護岸の崩壊や土砂流出により寸断され、物流機能に大きな支障をきたすとともに、市道も各所で寸断され孤立する集落等が発生した。



## ◆居住誘導区域と被災状況

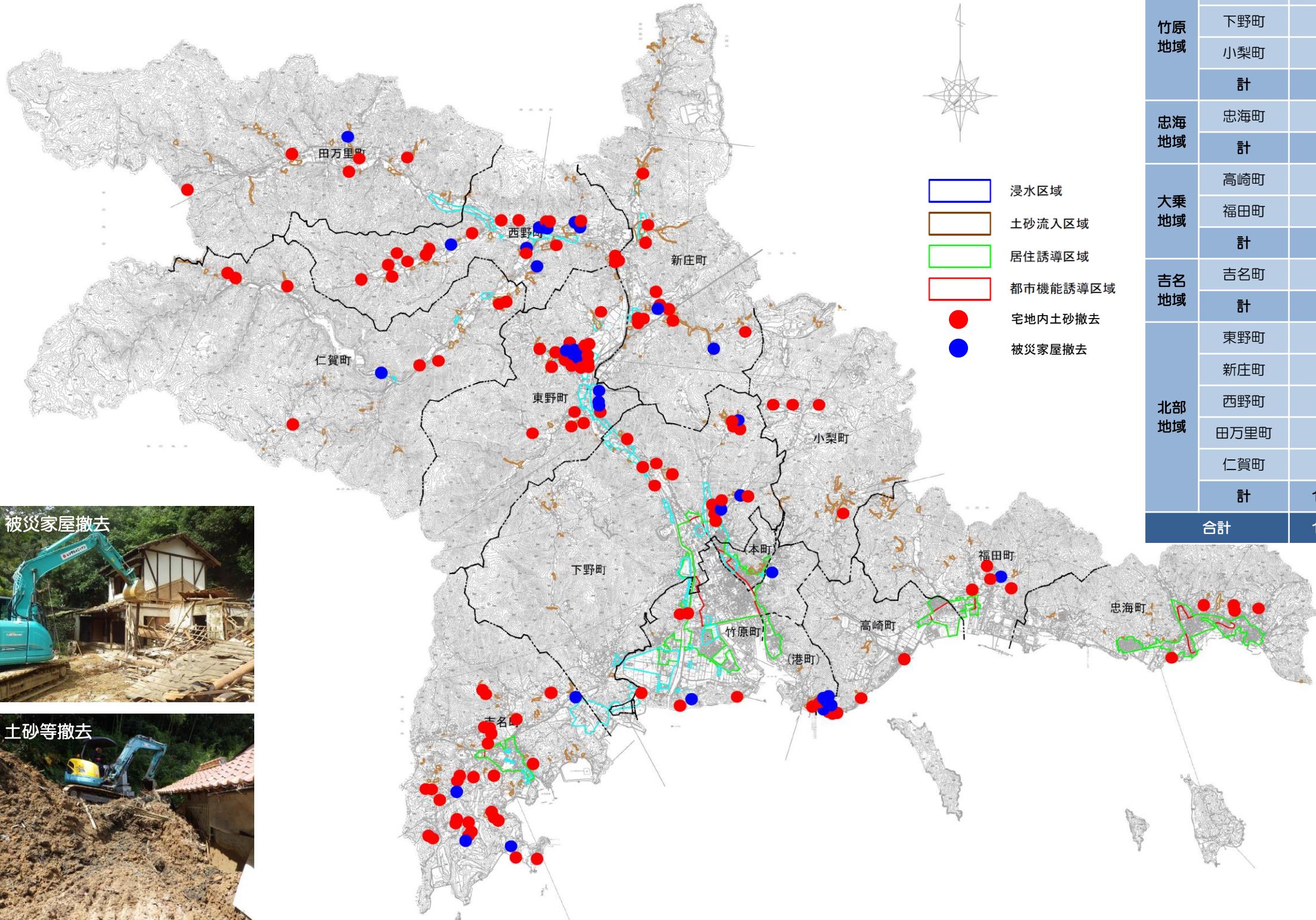


### ★考察

- 土砂災害は、市街地縁辺部や山間部で多く発生しているが、居住誘導区域内では、土砂災害による被害は少なかった。
- 居住誘導区域内での浸水被害は、主に竹原地区内の大王地区、塩町地区、西町地区を中心とした広い範囲、吉名地区内の西条地区、港地区の川沿いを中心に発生した。
- 商業、医療、行政機能等の集積している都市機能誘導区域内では、大きな災害は発生しなかった。

## ◆被災家屋及び宅地内土砂等撤去

本市では、平成30年7月豪雨災害において、大量の土砂や流木、岩石が宅地等の民有地に流入し、家屋等も多く被災しました。これらの被災家屋や堆積した土砂等を放置することは、道路や近隣敷地への2次災害の発生や地域の環境悪化を招く恐れがあること、堆積した土砂等が市民生活に支障をきたしていることなどから、竹原市自ら被災家屋の撤去及び宅地等の土砂撤去を行いました。



《撤去件数》

地区名		宅地内土砂撤去	被災家屋撤去
竹原地域	竹原町	15	7
	下野町	22	4
	小梨町	4	0
	計	41件	11件
忠海地域	忠海町	7	1
	計	7件	1件
大乗地域	高崎町	4	0
	福田町	6	1
	計	10件	1件
吉名地域	吉名町	34	5
	計	34件	5件
北部地域	東野町	40	8
	新庄町	15	2
	西野町	32	9
	田万里町	8	2
	仁賀町	11	2
	計	106件	23件
合計		198件	41件

